平成27年度学校評価シート

学校長名:中前 耕一 🗊 学校名:和歌山県立和歌山工業高等学校

目指す学校像・育てたい生徒像

○和歌山県の伝統ある工業高校として、職業教育のリーダ的役割を果たし、社会に貢献する学校。

○校訓である「質実剛健」に相応しい、健全な自主自立の精神や勤労を尊重し、国内外の産業発展に貢献できる生徒。

重点目標

(学校の課題に即し、精選した上で 具体的かつ明確に記入する)

1進路保障に向け学力の充実を図ると共に、国際人の育成を行う。

- 2基本的生活習慣の確立と、問題行動の防止に努める。
- 3広報の充実と地域との連携を深め、特色ある中核校を目指す。
- 4 適正かつ円滑な校務運営に努め、職員の意識向上を図る

	Α	十分に達成した(80%以上)		
達成	В	概ね達成した(60%以上)		
度	С	あまり十分でない(40%以上)		
	D	不十分である(40%未満)		

学校評価の結果と改善方策の公表の方法

年度末に発行する学校だよりに学校評価の結果を 掲載するとともに、本校ホームページでも公表す る予定である。

- (注) 1、重点目標は3~4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2、番号欄には、重点目標の番号を記入する。

3、評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。

	4、年度評価	<u> 町は、年度末(3月)に</u>	実施した結果を記載する。	5、学校関係者評価は、	自己評価の結果を踏まえて評価を行	う。 	
				自 己 評 価			
重点項目					平成27年度評価(平成28年3月17日現在)		
器	現状と課題	評価項目	具体饵組	評価情	評価項目の達成状況	主旗	次年度への課題と改善方策
1	基礎学力の不足等で 第1希望の連絡に進め ていない生徒がいる。	○第1次合格率向上○実力テストや検定等の成果○補習等の状況○語学教育の充実(言語活動)	○基礎学力向上のため効果的な指導方法を確立する。○希望する会社に合わせた指導をより充実させる。○各種検定に対する取り組みを充実させる。	○実力テストや検定の結果 ○補習の時間数	 ○1次合格率 77.4%(前年度75.7%) ○実力テスト (5教科平均) 1年52.24%(前年度47.02%)、2年38.36%(同45.77%)、3年52.82%(同47.4%)。 ○資格取得や成績向上のための補習等は、各教科各専門科で適宜行っている。 ○大学の指定校推薦枠等の増加。 △評価30.8%(前中度32.8)、時間が7.74%(前中度62.5) 	В	○進路指導の円滑化と情勢変化 への柔軟な対応。 ○教科横断的指導体制の構築 ○基礎学力充実と、コミュニケ ーション能力向上に向け、指 導体制のよりよい改善をし、 成績向上につなげる。
2			○日常生活の改善で、遅刻・ 欠席の減少を図る。○触法行為等、問題行動の防 止に努め、規範意識の向上 を図る。	○特別指導の件数 (前年比10%減)	○3者面談は各学期末に各クラスで実施。 ○特別指導件数昨年度より2件減。 ○校門や街頭での指導に地域の方の協力 を得ながら、指導している。 ○教育相談についてスクールカウンセラ 一等の協力を得、関係機関との連携を 重視し取り組んでいる。 ○全職員協力し校内巡視の成果を上げ、 問題行動の防止効果が出ている。 △評価2.9%(前年度6.3)、時刑価3.8%(前年度83.8)	A	○全職員で行う校内や校外指導 計画を作成し、昨年同様風紀 向上に努力する。 ○携帯電話のマナー指導や自転 車登校指導など、指導計画を たて、全校生徒に周知する体 制を作る。 ○職員の意思統一を図り、組織 的指導体制を確立する
က	小・中学校や企業等に 、本校の特色や良さが 十分伝わっていない。	○開かれた学校づくりの 状況○広報紙の発行や、マスコミ等への情報発信の 状況	広報誌等(マンスリータイムス)を積極的に活用し情	○小・中の体験学習の結果 ○企業等との連携の結果	○学校開放週間、和工祭(文化祭)、体育大会の来校者数は313名であった。 (昨年度76名なお体育大会は含まず) ○体験学習では中学生や保護者等865名の参加であった。 ①夏季休業中等、工場見学、企業との連携を深めた。 ○クラブ活動は、全国大会や近畿大会など、よく出場している。 △評価28.1%(前年度21.3)、時刊価38.8%(前年度58.8)	A	○学校行事に参加していただける保護者が増加した。さらに、参加しやすくなるよう、工夫する。 ○マスコミ等通じ広報に努力している。学校行事やクラブ活動など、情報提供に努める。 ○同窓会活動の充実。
4	校務等の多用化が 進み、対策が必要であ る。	○文書事務の平準化継続○会議等の効率化	○会議の回数を減らすことや 、時間短縮に努める。○文書様式の統一化。	○会議の回数減や時間の短縮の 結果○文書事務改善の成果○職員の意識	○職員会議の回数23回(昨年度26回)、議題の精選等行い、回数削減ができた。△評価23.8%(前年度21.2), 時刑価3.8%(前年度62.5)	В	○管理職のマネジメントや、職員の工夫と努力を重ね、組織力の強化と、より円滑な校務運営を目指す。

学树紧着評価 平成28年3月実施

学校関係者からの意見・要望・評価等

<保護者評価・学校評議員評価> 「学校について知る良い機会でした」 「地域に根付いた人材の輩出を期待 します」「掃除が行き届いていないよ うに思います」「三者面談での説明が 丁寧でよくわかりました」「生徒さん がいつも正しく挨拶をして下さる姿 には感動します」「学校開放週間など どれだけの人が来るのですか」「イン ターンシップを含めより課外活動に 参加することで個人の意識も変わっ ていくのではないかと思います」

学校関係者の皆様へ たくさんの声をいただきました。 どうもありがとうございました。いた だいた結果を、来年度の成果につなげ るよう、努力いたします。

評価	保護者(前年度)	評議員(前年度)
Α	42% (40%)	54% (74%)
В	35% (35%)	29% (24%)
С	20% (20%)	15% (1%)
D	0.9% (2.6%)	2% (0%)
E	1.2% (1.7%)	0

<生徒評価>

学校を卒業して自分の将来に自信が 持てると回答した生徒は、クラスで2 割から3割で、そう思うことができな い生徒が、2年連続で増えている。 学校運営の改善をすることで、さらな る優秀な人材育成に取り組みたい。